2027年3月期（2Q）

# 決算説明資料

株式会社 ミダックホールディングス

証券コード：6564

CONTENTS

# 目次


01 当社グループの紹介 P2

02 決算内容 P8

03 トピックス P16

04 今後の見通し P18

05 Appendix P26

# 01

# 当社グループの紹介


| | | |
|---|---|---|
| 01 | 当社グループの紹介 | P2 |
| 02 | 決算内容 | P8 |
| 03 | トピックス | P16 |
| 04 | 今後の見通し | P18 |
| 05 | Appendix | P26 |

# 会社概要



| | |
|---|---|
| **社名** | 株式会社ミダックホールディングス（MIDAC HOLDINGS CO.,LTD.） |
| **創業** | 1952年4月（昭和27年） |
| **資本金** | 9,000万円 |
| **代表者** | 代表取締役社長　加藤 恵子 |
| **本社** | 静岡県浜松市中央区有玉南町2163番地 |
| **従業員** | 455名※（2026年9月末：グループ連結）※ 臨時雇用者を含む |
| **子会社** | 株式会社ミダック／株式会社ミダックライナー／株式会社三晃／株式会社ミダックこなん／株式会社フレンドサニタリー／遠州砕石株式会社／大平興産株式会社／有限会社エノケン工業／LOVE THY NEIGHBOR株式会社／株式会社岩原果樹園 |
| **関連会社** | 株式会社グリーン・サーキュラー・ファクトリー |

## 事業内容

- 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬・処分
- 一般廃棄物の収集運搬・処分

● ミダック ● ミダックライナー ● 三晃 ● ミダックこなん ● フレンドサニタリー ● 遠州砕石 ● 大平興産 ● エノケン工業

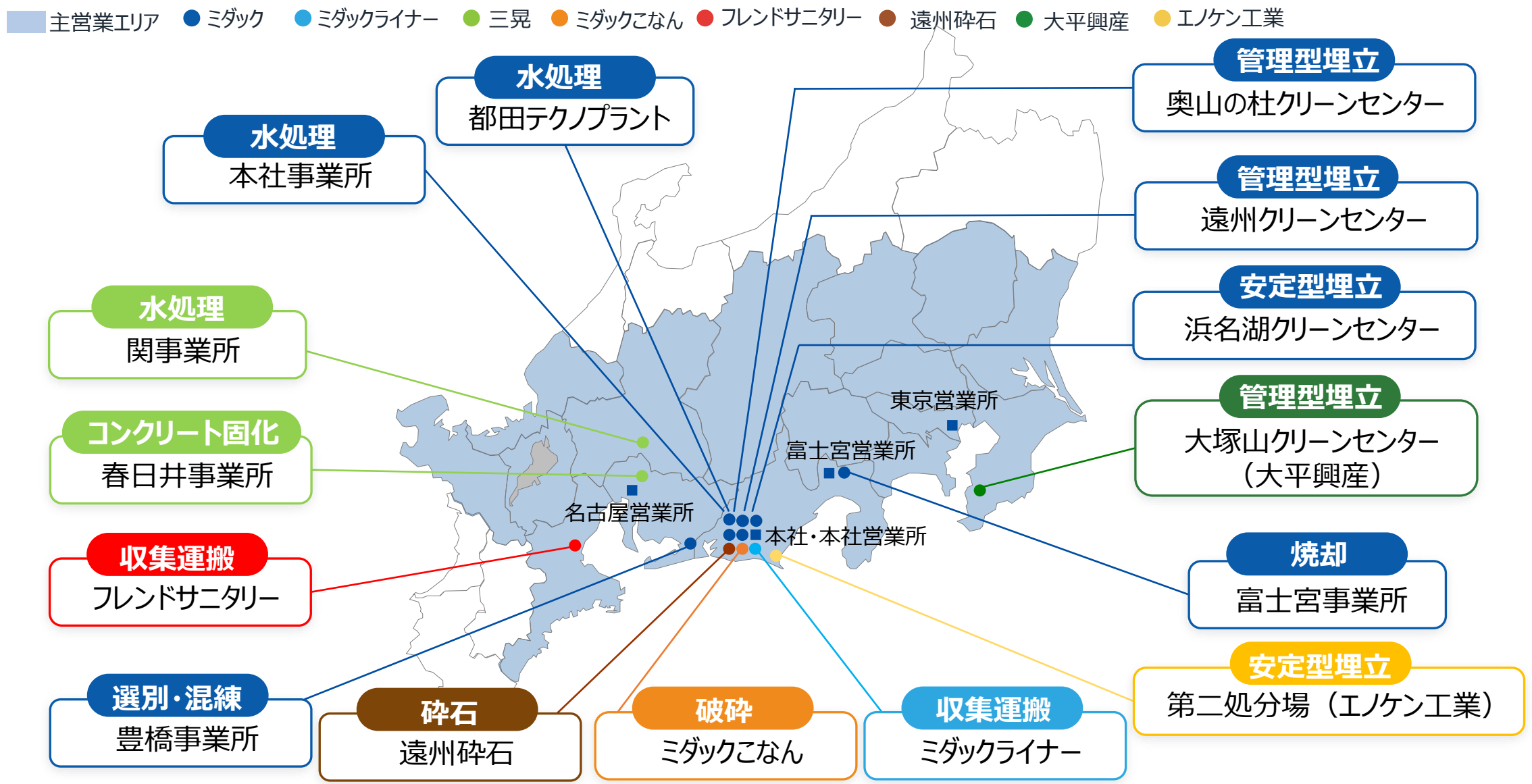
## 事業所

- 富士宮事業所（焼却）
- 本社事業所（水処理）
- 都田テクノプラント（水処理）
- 豊橋事業所（混練）
- ミダックライナー（収集運搬）
- 春日井事業所（コンクリート固化）
- 関事業所（水処理）
- ミダックこなん（破砕）
- フレンドサニタリー（収集運搬）
- 遠州砕石（砕石）
- 大平興産（管理型埋立）
- エノケン工業（安定型埋立）

## 営業所

- 東京営業所
  東京都品川区
- 富士宮営業所
  静岡県富士宮市
- 本社営業所
  静岡県浜松市
- 名古屋営業所
  愛知県名古屋市

# 拠点一覧


主営業エリア
ミダック
ミダックライナー
三晃
ミダックこなん
フレンドサニタリー
遠州砕石
大平興産
エノケン工業
水処理
都田テクノプラント
水処理
本社事業所
管理型埋立
奥山の杜クリーンセンター
管理型埋立
遠州クリーンセンター
安定型埋立
浜名湖クリーンセンター
管理型埋立
大塚山クリーンセンター
（大平興産）
水処理
関事業所
コンクリート固化
春日井事業所
収集運搬
フレンドサニタリー
選別・混練
豊橋事業所
東京営業所
富士宮営業所
名古屋営業所
本社・本社営業所
焼却
富士宮事業所
安定型埋立
第二処分場（エノケン工業）
砕石
遠州砕石
破砕
ミダックこなん
収集運搬
ミダックライナー

# 廃棄物処理の工程

廃棄物処分事業　収集運搬事業　仲介管理事業

排出事業者

産業廃棄物

**収集運搬**



収集運搬車両

**中間処理**



焼却



破砕

**最終処分**



最終処分場

一般廃棄物

**収集運搬**



収集運搬車両

**市町村の焼却施設等**

**仲介管理事業**

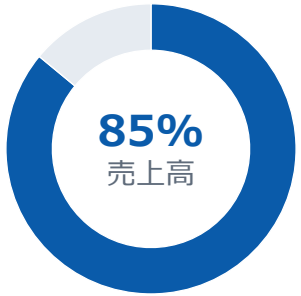
仲介管理

手数料

廃棄物

**廃棄物処理業者**

# セグメント一覧



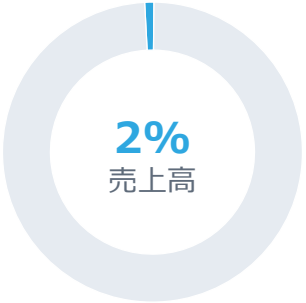

## 廃棄物処分事業

- 自社施設による廃棄物処理サービスを提供
- 廃棄物処理サービスとは、産業廃棄物の収集運搬から中間処理、最終処分で構成
- 当グループの中核事業であり、多種多様な廃棄物を処理できる体制を構築




## 収集運搬事業

- オフィスビルや飲食店などから排出される一般廃棄物の収集運搬
- 付随して、清掃業務等も受注




## 仲介管理事業

- 自社以外の処理業者へ顧客の紹介サービスを提供
- 自社処理が困難な廃棄物や、自社の商圏以外の廃棄物に対して、適正な廃棄物処理を提案



関事業所（水処理）



富士宮事業所（焼却処理）



奥山の杜CC（最終処分場）



収集運搬車両（ミダックライナー）



収集運搬車両（フレンドサニタリー）



清掃業務等



富士宮営業所



東京営業所



名古屋営業所

注：売上高には内部売上高を含む

# 一貫処理体制

同業の多くが収集運搬業のみや中間処理業のみであるのに対し、当社グループは様々な設備を有することで、収集運搬から最終処分までを請け負う一貫とした処理体制を構築

排出事業者

**収集運搬**



タンクローリー車



バキューム車

**中間処理**



焼却



破砕



水処理



コンクリート固化

**最終処分**



管理型処分場



安定型処分場

**一貫処理体制**

- 排出事業者は廃棄物処理の過程で不適正処理等される心配がなく安心して廃棄物を委託
- グループ内で排出される廃棄物を内製化することで、中間処理施設のコスト削減を実現し、競争力を高める等のシナジー効果を発揮

# 02

# 決算内容


01 当社グループの紹介 P2

02 **決算内容** **P8**

03 トピックス P16

04 今後の見通し P18

05 Appendix P26

# 連結業績ハイライト

**売上高** 前年比 +19.7%

**6,462** 百万円

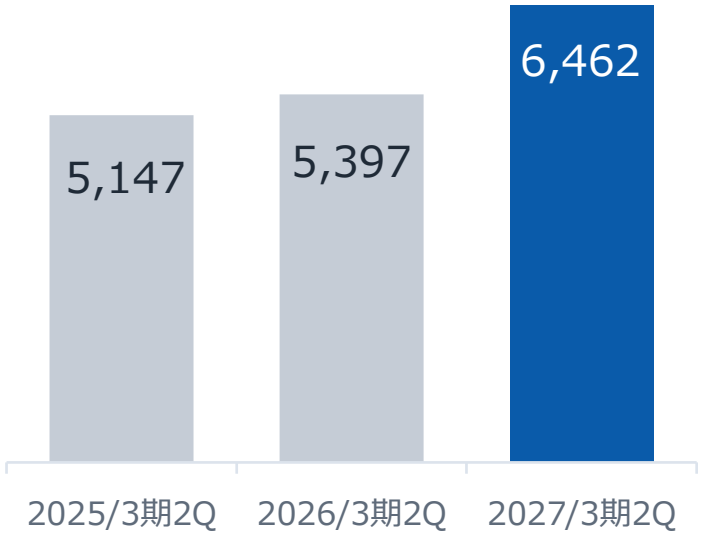
**営業利益** 前年比 +27.4%

**2,532** 百万円

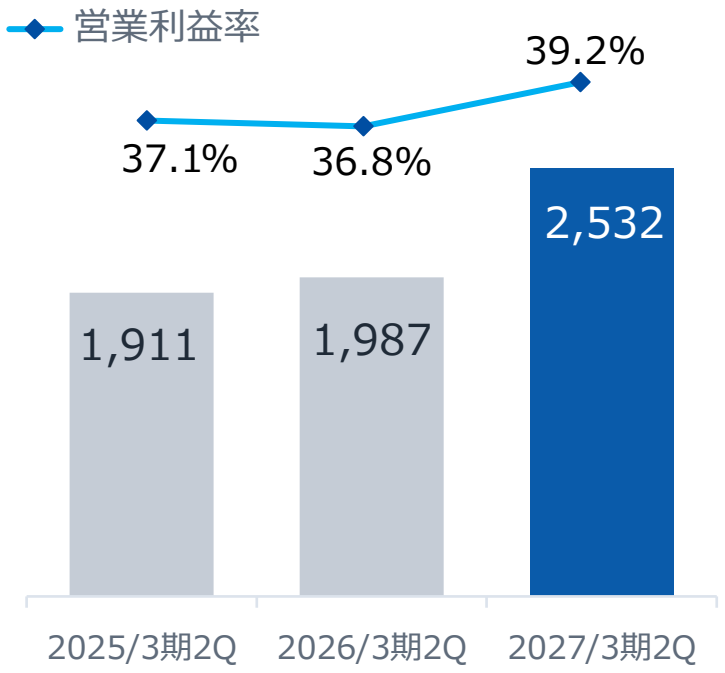
**中間純利益※** 前年比 +18.2%

**1,422** 百万円

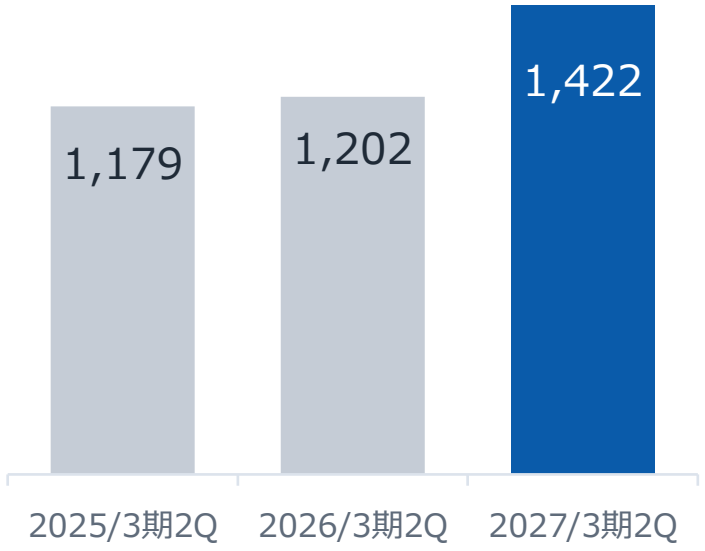
＜売上高＞




＜営業利益＞




＜中間純利益＞※




※ 親会社株主に帰属する中間純利益

# セグメント別分析

## ● 廃棄物処分事業

最終処分場においては、大平興産における搬入量の拡大と、旺盛な埋立需要を背景として、廃棄物受託量は増加

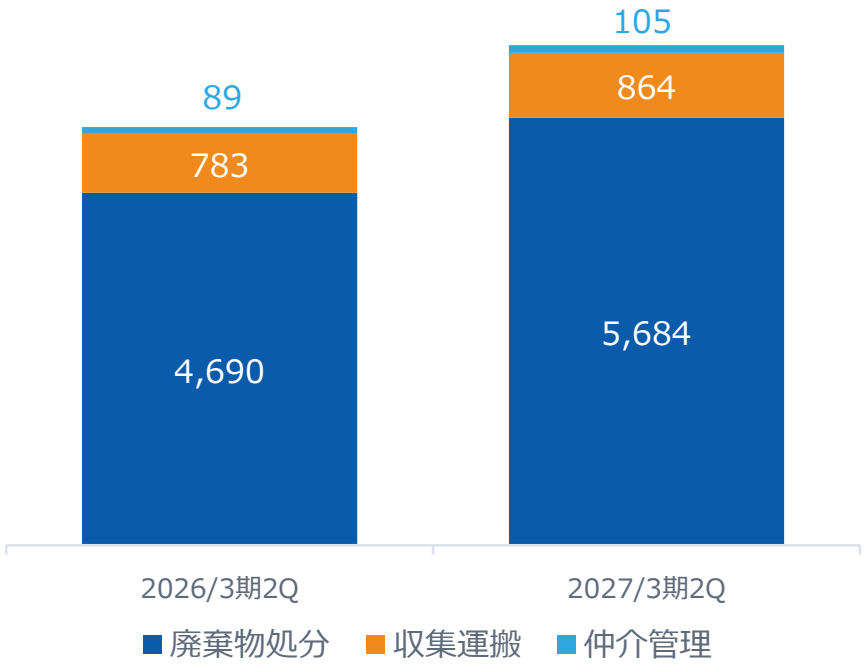
## ● 収集運搬事業

フレンドサニタリーにおけるスポット案件の増加が業績へ貢献

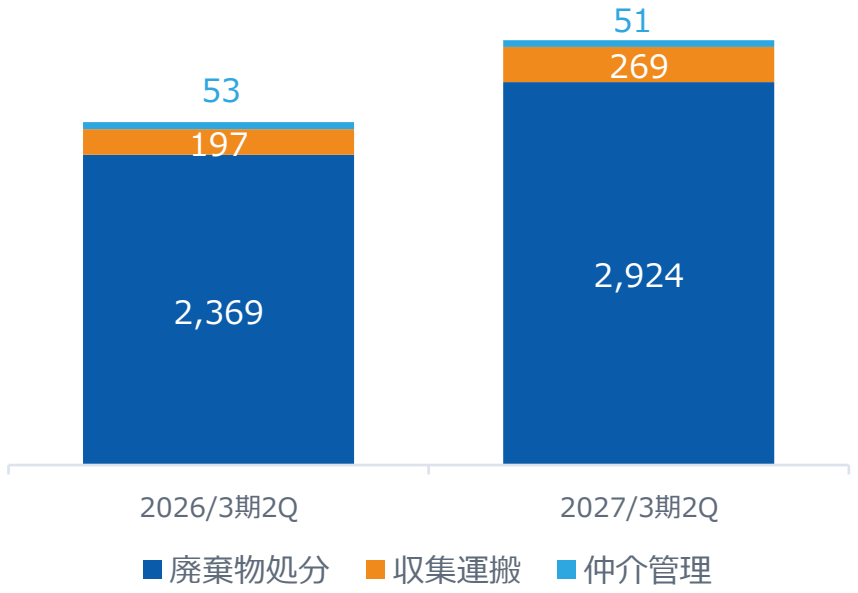
## ● 仲介管理事業

既存取引先との取引拡大の一方で、人件費等のコストが増加

### セグメント別売上高 (注)



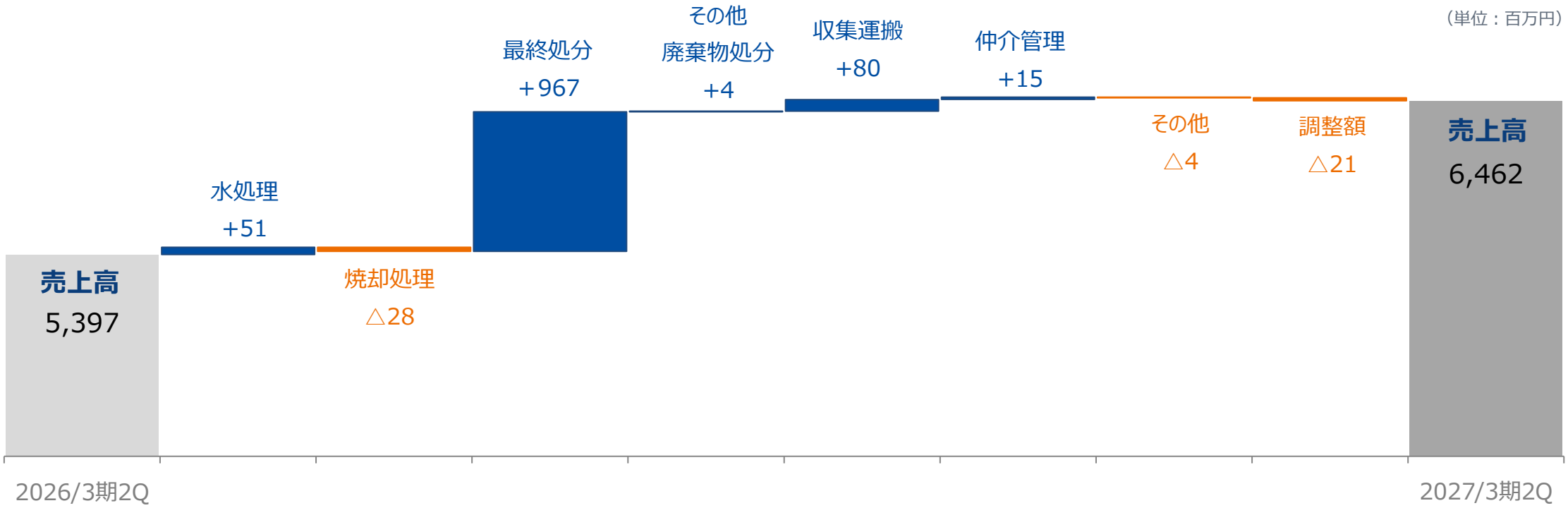

### セグメント利益 (注)




注：内部取引を含む

# 売上高増減分析

- 最終処分は、大平興産における搬入量の拡大と奥山の杜クリーンセンターを中心とした廃棄物受託量の拡大により、増収となった
- 収集運搬は、フレンドサニタリーにおけるスポット案件が寄与したことにより、増収となった

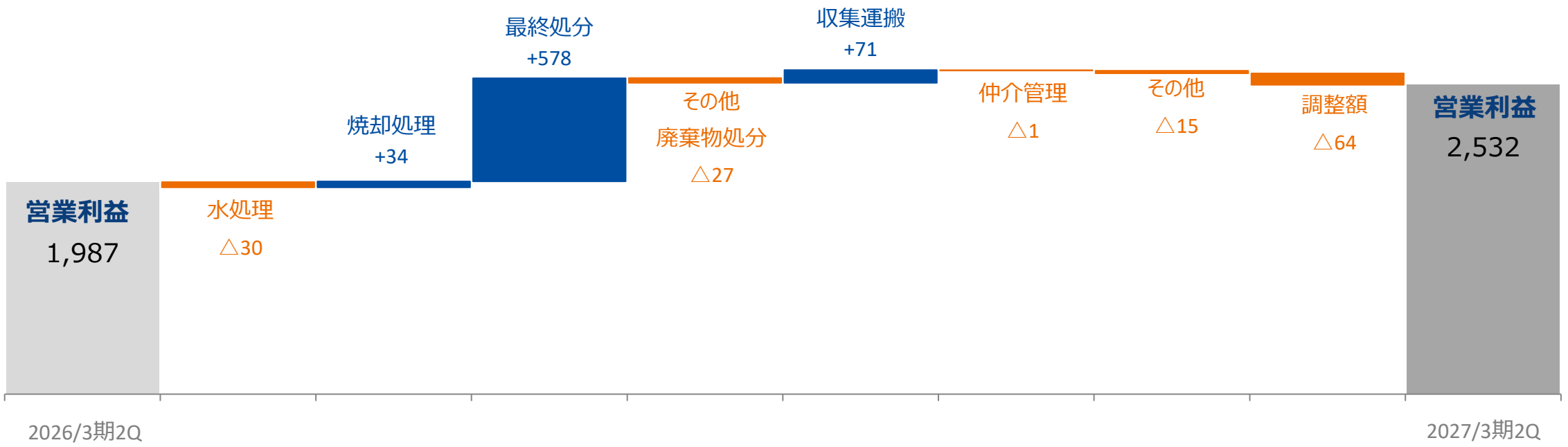



注1：各カテゴリー別の数値は内部取引を含む　注2：調整額はセグメント間取引消去の増減

# 営業利益増減分析

- 最終処分が大きく貢献し、廃棄物処分事業は好調に推移
- 収集運搬は、フレンドサニタリーにおけるスポット案件が寄与したことにより、増益となった

（単位：百万円）




注1：各カテゴリー別の数値は内部取引を含む　注2：調整額はセグメント間取引消去と全社費用の増減

# 業績予想との比較

**進捗**

売上高・利益ともに
概ね上期予想に沿った進捗

**新施設**

都田テクノプラントについては
2026年6月より一部稼働を開始

**廃棄物受託量**

最終処分場における
廃棄物受託量は拡大

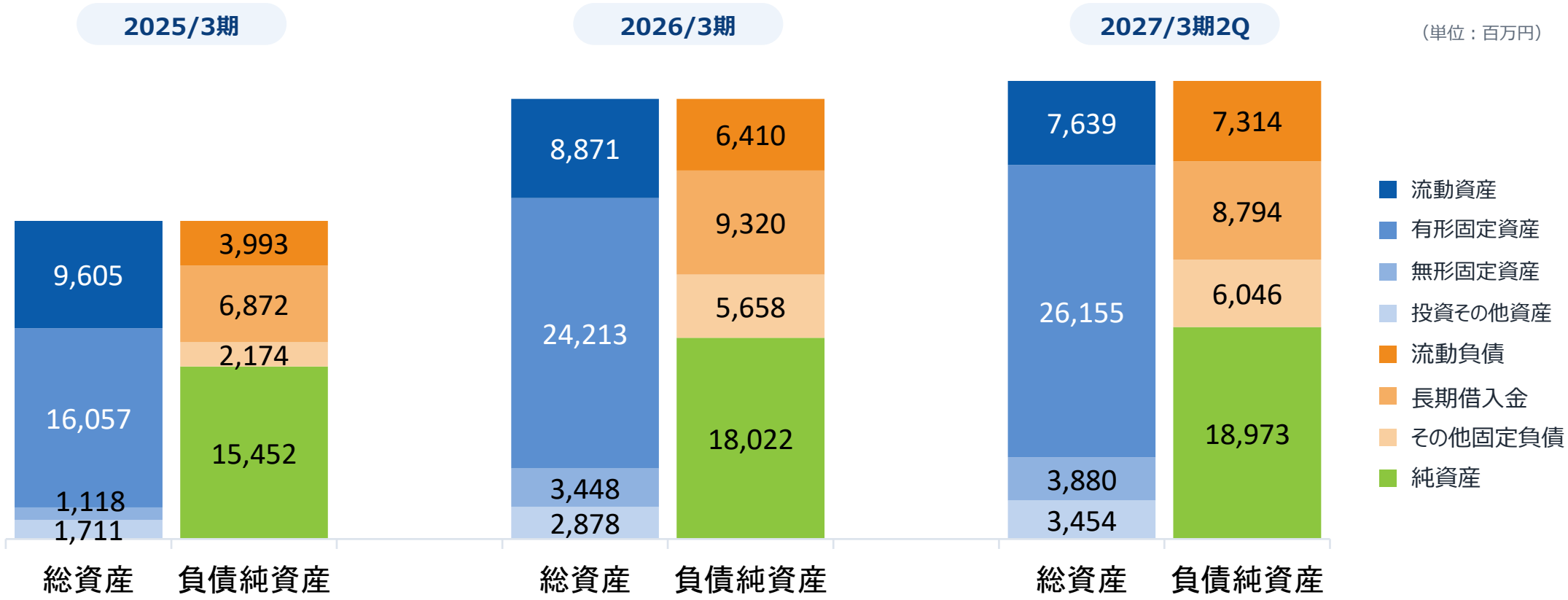
（単位：百万円）

| | 2027/3期 上期実績 | 構成比 | 2027/3期 上期予想 | 上期 予想比 | 2027/3期 通期予想 | 通期 進捗率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 6,462 | 100.0% | 6,490 | 99.5% | 13,494 | 47.9% |
| 営業利益 | 2,532 | 39.2% | 2,523 | 100.3% | 5,489 | 46.1% |
| 経常利益 | 2,446 | 37.8% | 2,412 | 101.4% | 5,268 | 46.4% |
| 当期純利益 (注) | 1,422 | 22.0% | 1,440 | 98.8% | 3,340 | 42.6% |

注：親会社株主に帰属する当期純利益

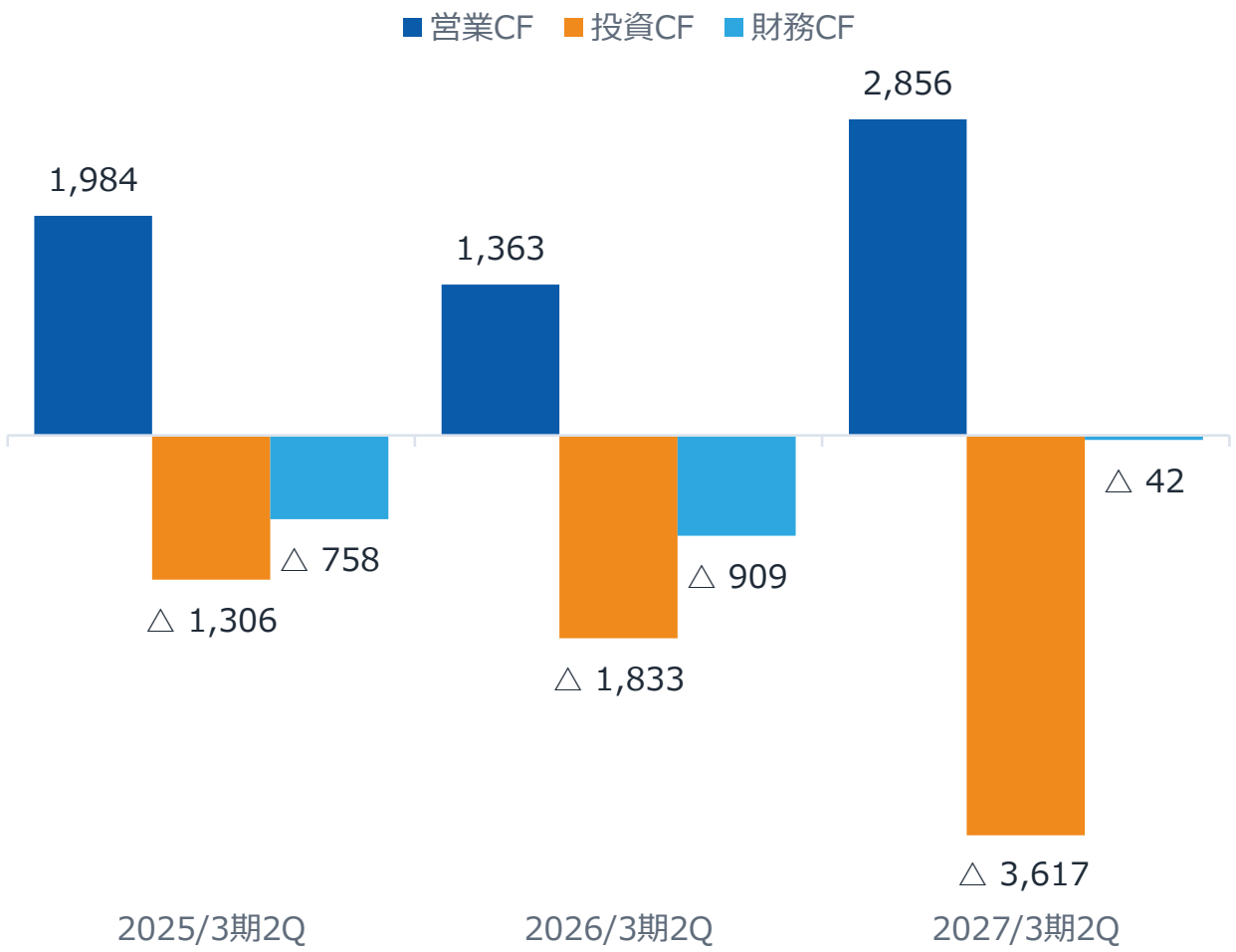
# 貸借対照表

- 有形固定資産の増加：土地等有形固定資産の増加によるもの
- 負債の増加：短期借入金の増加等によるもの
- 自己資本比率は前期比0.4ポイント改善し46.0%となった



# キャッシュフロー計算書

（単位：百万円）




**営業CF**

| | |
|---|---|
| 税金等調整前当期純利益 | **+2,446百万円** |
| 減価償却費 | **+499百万円** |
| 法人税等の支払額 | **△957百万円 等** |

**投資CF**

| | |
|---|---|
| 有形固定資産の取得による支出 | **△2,501百万円 等** |

**財務CF**

| | |
|---|---|
| 短期借入金の純増額 | **1,000百万円** |
| 長期借入金の返済による支出 | **△526百万円** |
| 配当金の支払額 | **△498百万円 等** |

# 03
# トピックス


01 当社グループの紹介 P2

02 決算内容 P8

03 トピックス P16

04 今後の見通し P18

05 Appendix P26

# 廃棄物分野における業務提携に関する協定の締結

- 株式会社ミダックホールディングスとテラレムグループ株式会社、株式会社富山環境整備の3社は、廃棄物分野における協力関係の構築及び事業可能性の検討を目的として、廃棄物分野における業務提携に関する協定を締結

| | |
|---|---|
| **名称** | 廃棄物分野における業務提携 |
| **協定の概要** | ミダックHD、テラレムグループ及び富山環境整備は、それぞれが有する人材、設備、技術、許認可及び地域ネットワーク等の経営資源を相互に活用し、当該分野における協力体制の構築及び事業化の可能性を共同で検討するもの |
| **協定式実施日** | 2026年9月7日 |



# 04

# 今後の見通し


01 当社グループの紹介 P2

02 決算内容 P8

03 トピックス P16

**04 今後の見通し P18**

05 Appendix P26

# 外部環境の変化への対応

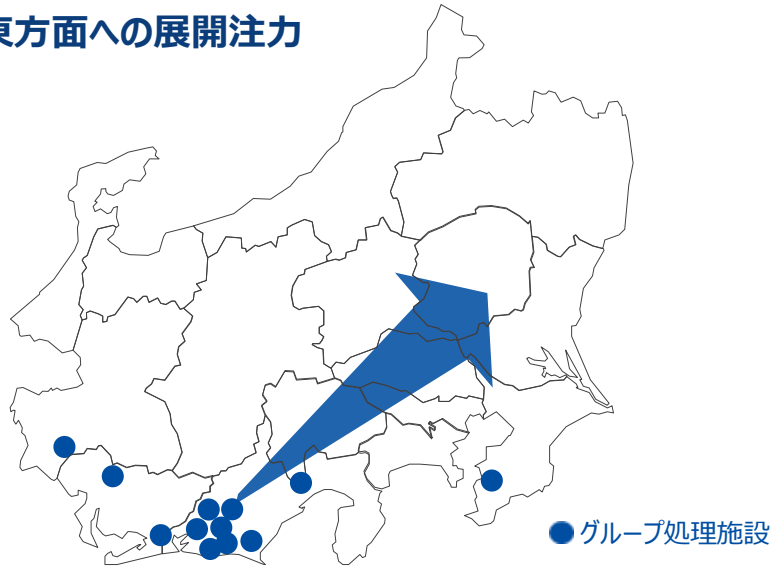
- 処理施設や許可を多数保有する優位性を発揮し、堅調な業種及び取引先に対して効率的かつ広域な営業を展開
- 廃棄物処分事業の業種構成において廃棄物処理業・建設業・製造業が高いシェアを占める
- 廃棄物受入体制の強化を継続的に実施することで、各中間処理施設の稼働率の向上を目指す



# 中長期的な成長戦略

- 事業地域を拡大し、成長を続けるには、需要が見込める有望地域への拠点展開が不可欠
- 太平洋ベルト近辺に焼却施設及び最終処分場の設置候補地を複数選定し、同時並行的に計画を推進することで、早期に設置許可を取得し、事業の更なる拡大を目指す

## 関東方面への展開注力




- 関東地域への展開に注力し、新規廃棄物処理施設の設置候補地を複数選定
- 新規廃棄物施設の展開については、自社での開発だけに限定せず、M & Aなど柔軟かつスピーディに対応

## 自社による開発



**2022年2月 稼働開始**
管理型最終処分場
（奥山の杜クリーンセンター）




**2022年3月 土地取得**
焼却施設



**2026年4月 開業**
水処理施設
（都田テクノプラント）

## 積極的かつスピーディーなM&A



**2015年12月**
㈱ミダック



**2021年10月**
㈱ミダックこなん



**2023年9月**
㈱フレンドサニタリー

# 支援型M&A

**社会的課題と業界的課題に的確に対応し、最終処分場の長寿命化を実現していく「支援型M&A」を推進**

## 当社グループが推し進める「支援型M&A」とは…

### 【社会的課題】

- **最終処分場の慢性的な不足**
  （残存容量の逼迫）
- **持続可能な地域社会づくり**
  （環境負荷軽減ニーズの高まり）

### 【業界的課題】

- **最終処分場経営の難しさ**
  （適切な事業運営の難しさ）
- **埋立完了後も維持管理が必要**
  （事業継続の難しさ）

**【社会的課題】と【業界的課題】に的確に対応して…**

↓

# 最終処分場の長寿命化を実現

# 支援型M&Aの実績

## 「支援型M&A」投資への注力

### 大平興産株式会社

- 2025年4月M&A
- 千葉県内で管理型最終処分場を運営
  ⇒ 最終処分場の増量計画を公表



### 有限会社エノケン工業

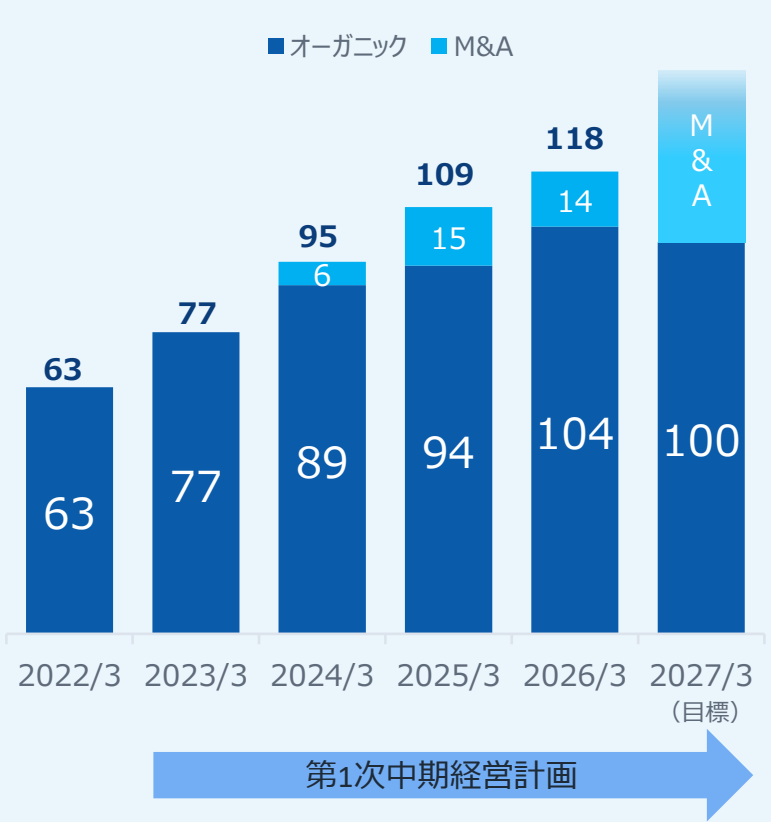
- 2026年4月M&A
- 静岡県牧之原市で安定型最終処分場を運営
  ⇒ 中長期的に最終処分場の新規設置も視野



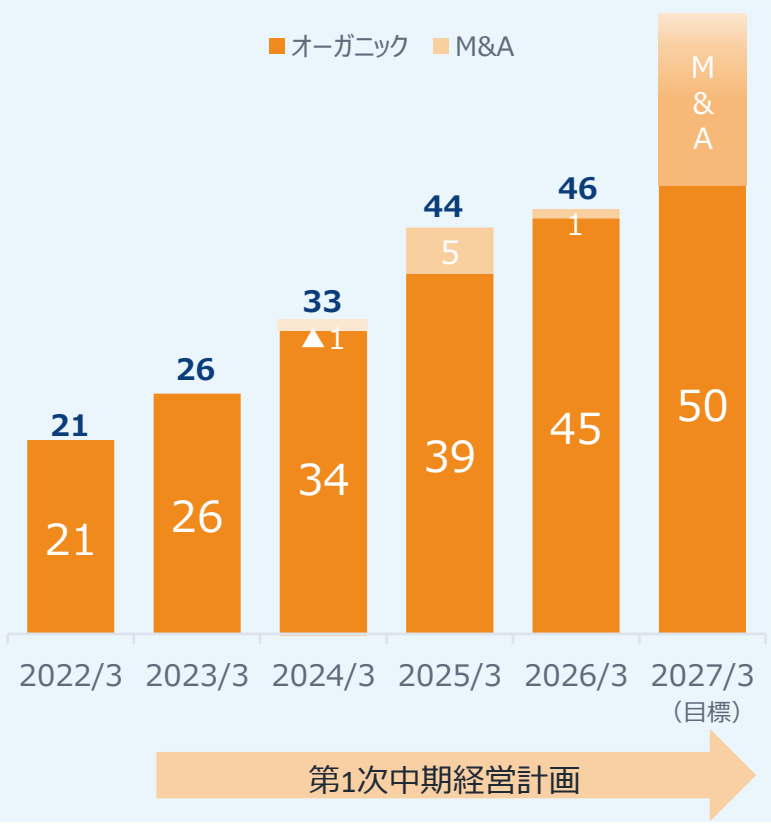
# 中期経営計画の進捗

## トップラインは既に100億円を超え、次の中期経営計画を見据えた成長投資をさらに加速させていく段階に入ってきました。

（単位：億円）




（単位：億円）




ミダックグループ10年ビジョン
『Challenge 80th』

**業界屈指の総合廃棄物処理企業への進化を推し進め、業界を代表する真のリーダーを目指す。**

**2032年3月期**
**チャレンジ目標**
（M&A含む）

**売上高 400億円**

**経常利益 120億円**

＜第1次中期経営計画：2023/3期～2027/3期＞
※ 2027/3期は目標値（オーガニック）

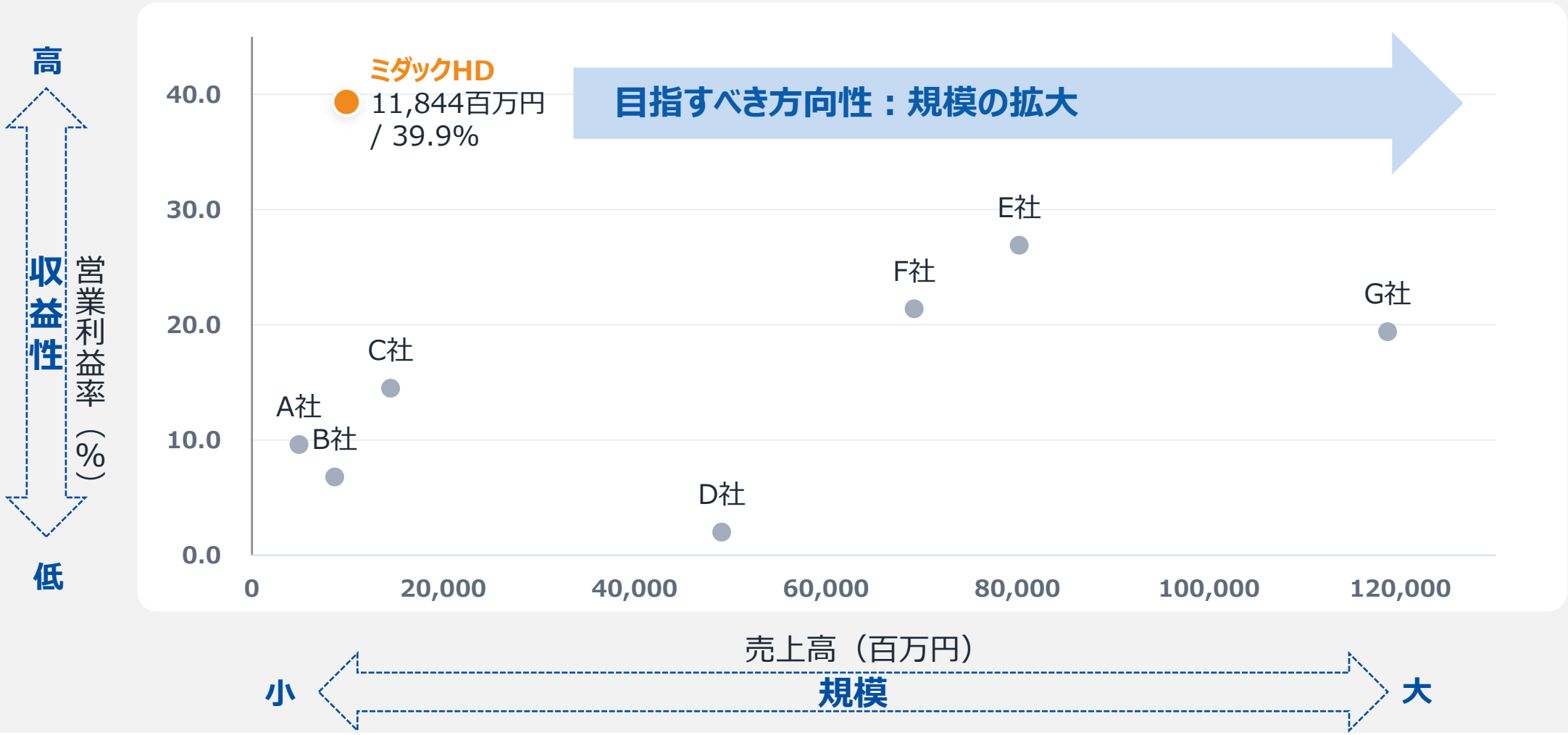
# 中期経営計画の進捗（最終処分場の開発計画）

- 最終処分を「コア事業」と位置づけし、最終処分の優位性を拡大していく
- 浜松に2ヶ所となっている管理型最終処分場については役割を明確に分け、効率的な運用を推進
- 東日本エリアにおける2ヶ所を含めた3件の管理型最終処分場の許可取得を計画し、今後の開業に向けて準備を進めていく



# 同業他社との比較

- 売上高は11,844百万円と規模の面では同業他社に劣るものの、営業利益率は39.9%と高い収益性を維持（2026年3月期実績）
- 引き続き関東方面への進出を図り、規模の拡大を目指していく



# 05

# Appendix


01 当社グループの紹介 P2

02 決算内容 P8

03 トピックス P16

04 今後の見通し P18

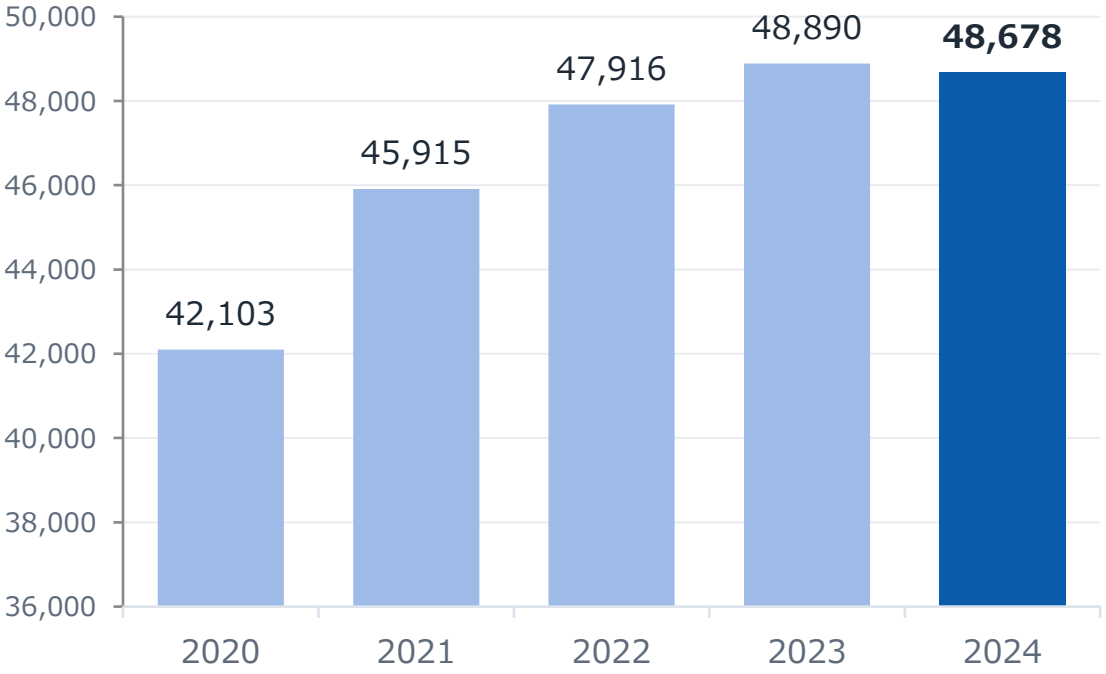
**05 Appendix P26**

# 業界環境（市場規模・地域別排出割合）

廃棄物処理・リサイクルサービスの推定市場規模 **約4.8兆円**

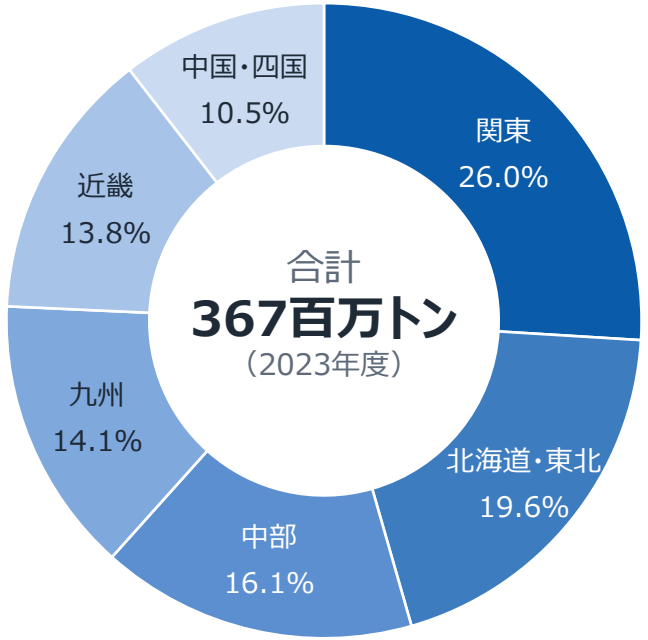
地域別の産業廃棄物の排出量は **関東** が最多、次いで北海道・東北、中部

廃棄物処理・リサイクルサービス市場規模（億円）




出典：環境省「環境産業の市場規模・雇用規模等に関する報告書（令和7年3月）」

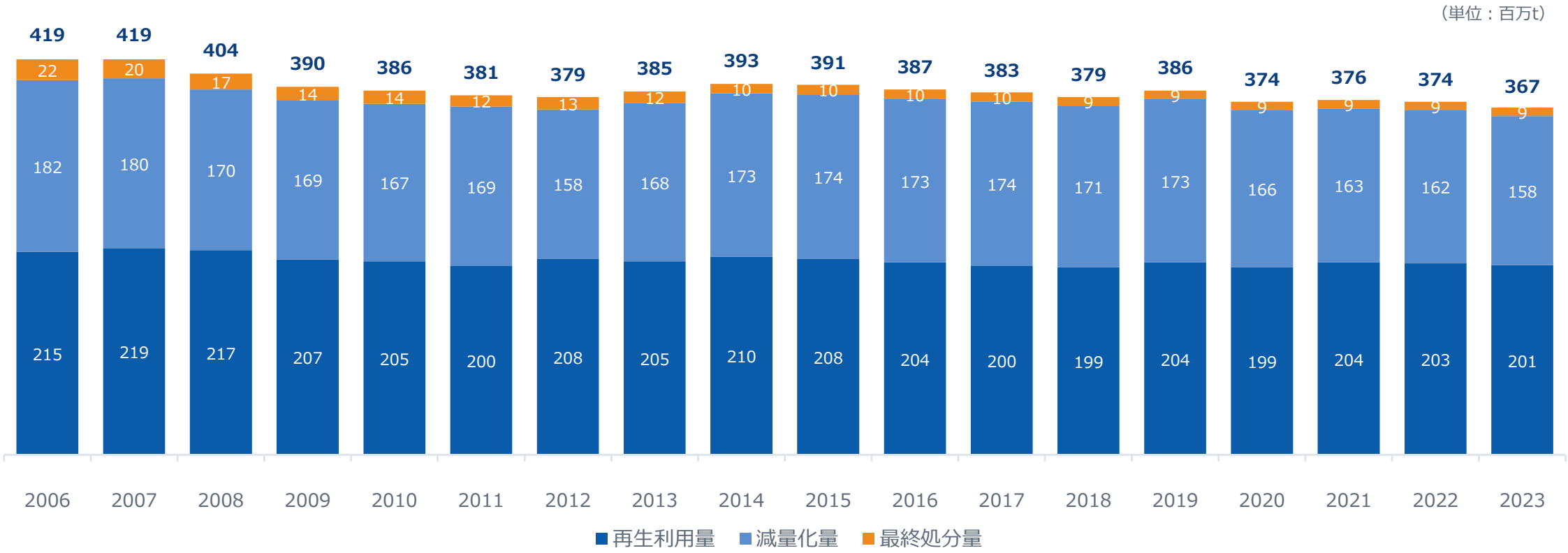
産業廃棄物の地域別排出割合




出典：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況（令和5年度実績値）」

# 業界環境（産業廃棄物の総排出量）

- 産業廃棄物の総排出量は2023年度で367百万トンであり、大きな変化は見られない
- 今後においても、一定の廃棄物の排出が継続するものと予測




出典：環境省「産業廃棄物排出・処理状況調査報告書（令和5年度実績値）」

# 業界環境（最終処分量の推移）

- 循環型社会形成推進基本計画では2030年度の最終処分量の数値目標を約11百万トンと設定
- 最終処分は今後も不可避的に発生し、最終処分場は社会に必要不可欠な存在




出典：環境省「産業廃棄物排出・処理状況調査報告書（令和5年度実績値）」、環境省「循環型社会形成推進基本計画（令和6年8月）」

# 業界環境（最終処分場の残存容量と残余年数）

**20.3 年**
残余年数（全国）

**10.4 年**
残余年数（首都圏）

**1,551 件**
最終処分場の設置許可数（全国）

## 最終処分場の残存容量は約17,741万㎥であり、前年度から約321万㎥（1.7%）減少（2024年4月1日現在）

### 1. 最終処分場の残存容量（2024.4.1現在）

| 最終処分場 | 残存容量（万㎥） |
|---|---|
| 遮断型処分場 | 2 |
| 安定型処分場 | 6,487 |
| 管理型処分場 | 11,251 |
| 計 | 17,741 |

### 2. 産業廃棄物の最終処分場の残存容量と残余年数（2024.4.1現在）

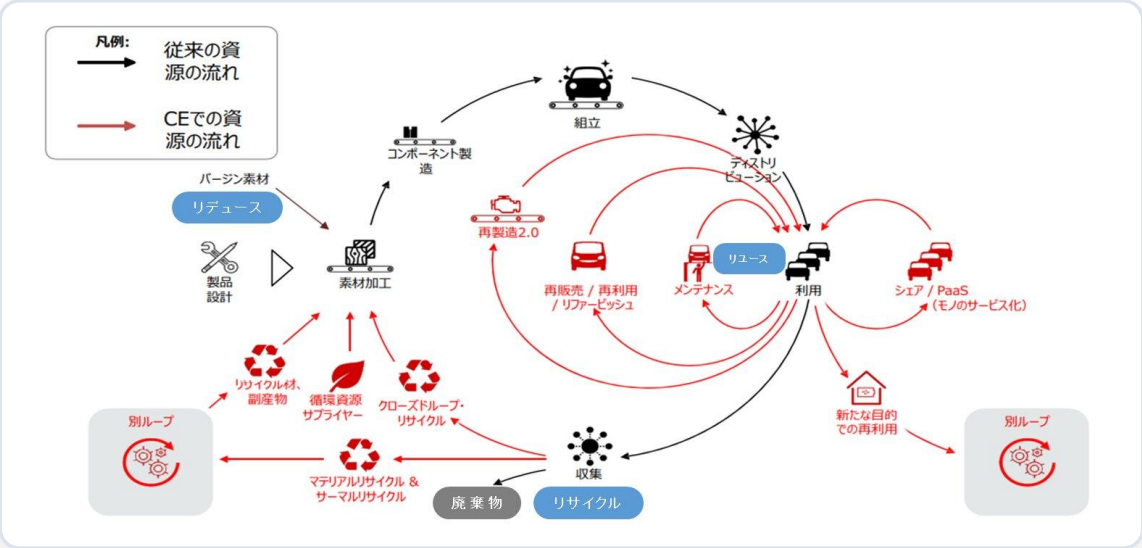
| 区分 | 最終処分量（万t） | 残存容量（万㎥） | 残余年数（年） |
|---|---|---|---|
| 全国 | 875 | 17,741 | 20.3 |
| 首都圏 | 182 | 1,899 | 10.4 |
| 近畿圏 | 132 | 2,583 | 19.5 |

1. 首都圏とは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県をいう。
2. 近畿圏とは、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県をいう。
3. 残余年数＝残存容量／最終処分量とする。（tと㎥の換算比を1とする。）

出典：環境省「産業廃棄物処理施設の設置、産業廃棄物処理業の許可等に関する状況（令和5年度実績）」

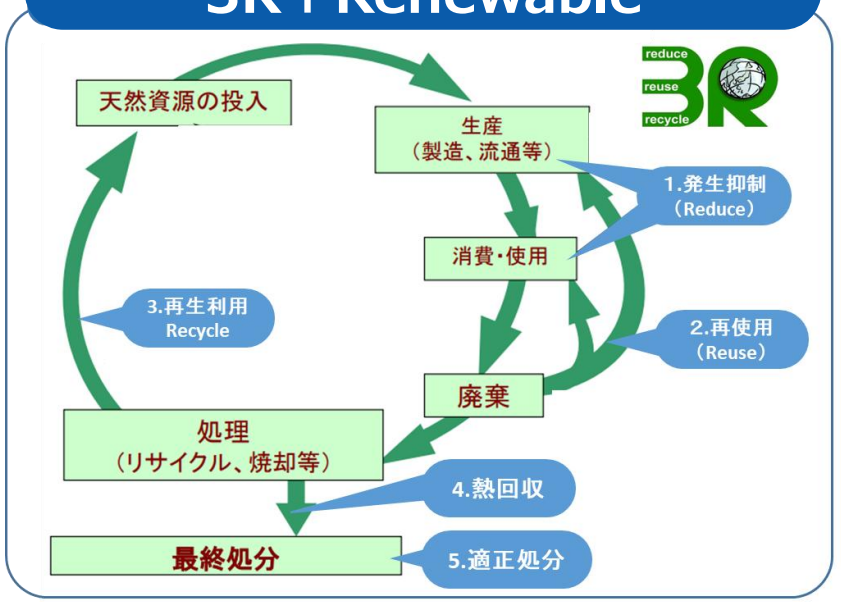
# 業界環境(「サーキュラーエコノミー」と「3R＋Renewable」)

## サーキュラーエコノミー




＊図：経済産業省「資源循環政策の現状と課題」を加工して作成

## 3R＋Renewable




＊図：環境省 中央環境審議会・循環型社会推進部会 参考資料を加工して作成

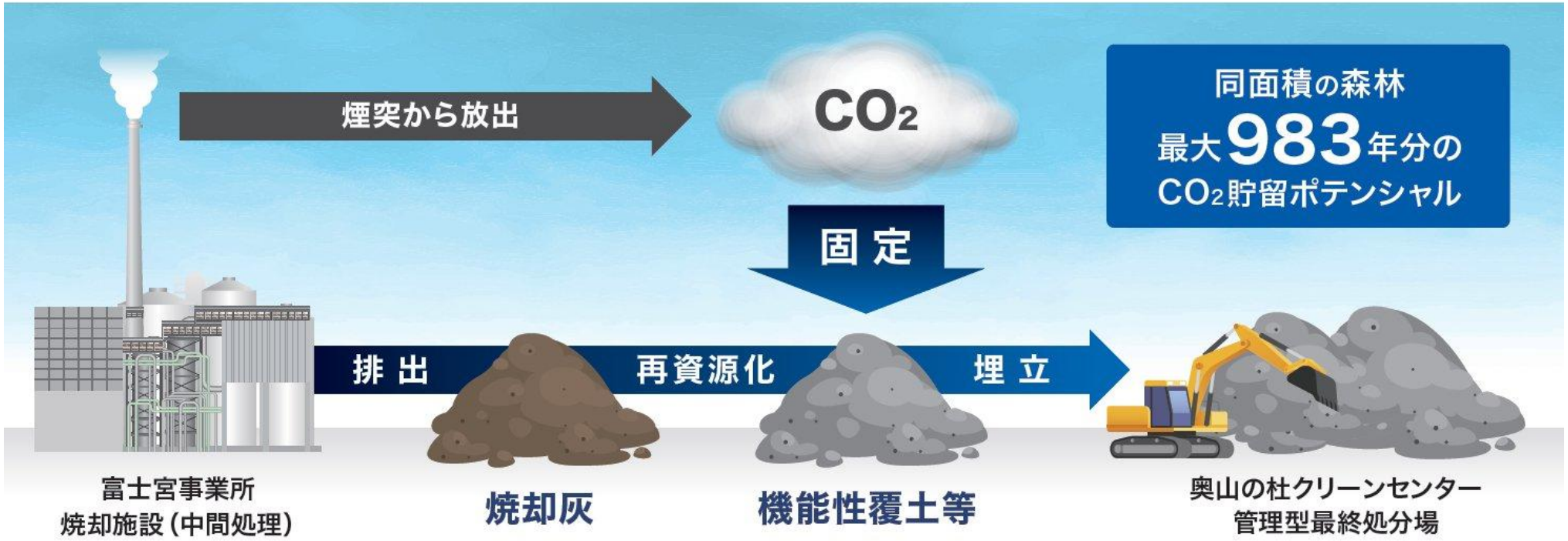
- 1990年代以降、世界的に3R（リデュース、リユース、リサイクル）の仕組みと法制度が導入。
- サーキュラーエコノミーとは、ビジネス活動を通じて循環型社会をつくること。

- 循環型社会形成推進基本法（2000年6月公布）第5条～7条に抑制（Reduce）、再使用（Reuse）、再生利用（Recycle）、熱回収、適正処分の基本原則が記載。
- 「3R＋Renewable」は、2019年5月のプラスチック資源循環戦略の基本原則として記載され、それ以降注目が集まっている。
- 動脈産業と同様に、静脈産業の重要性が示される。
- 「熱回収」と「適正処分（最終処分）」を明記

# 脱炭素化への取組み（処分場CCS技術開発）

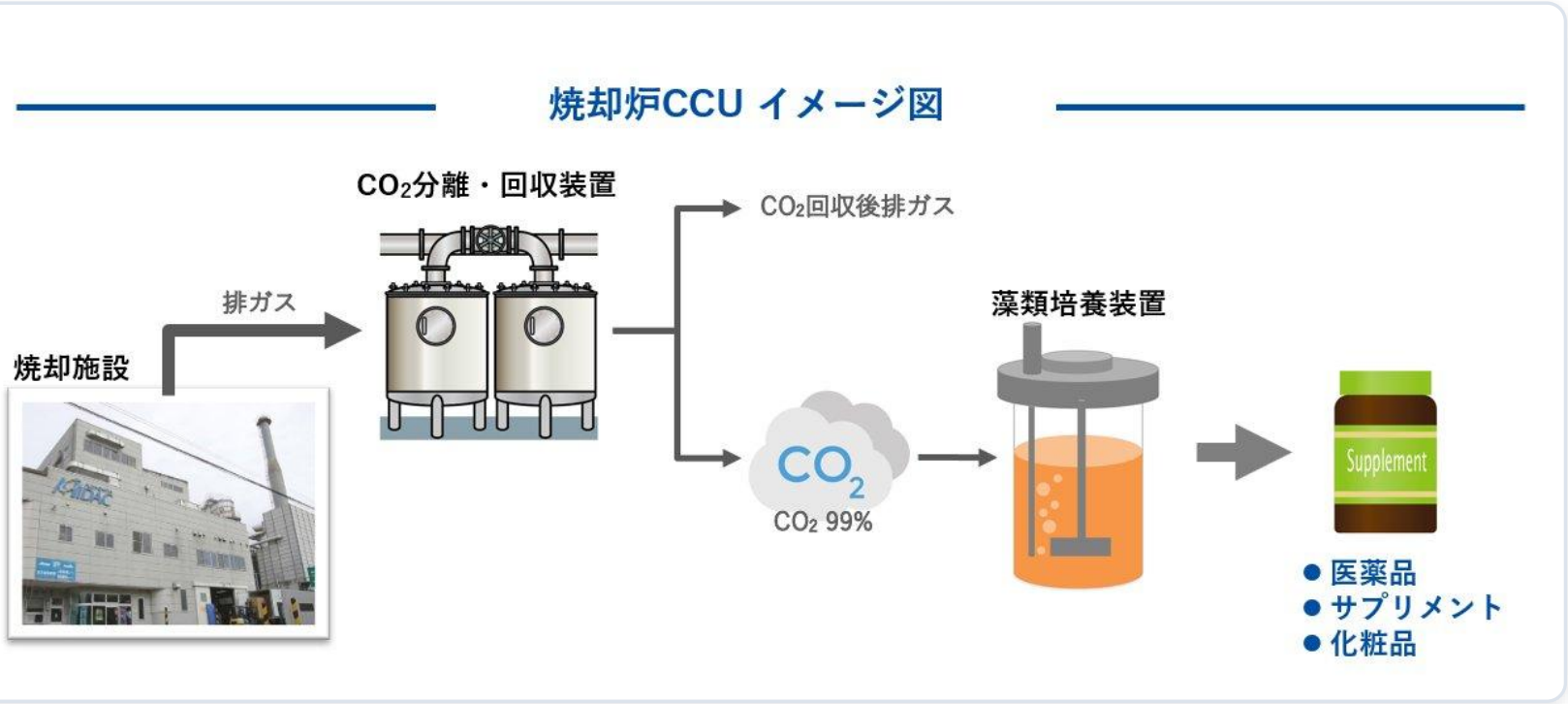
早稲田大学地盤工学研究室（小峯秀雄教授）との共同研究を通じて、産業副産物（廃棄物）と最終処分場を活用した焼却由来$CO_2$のCCS（$CO_2$ Capture and Storage：二酸化炭素回収・貯留技術）に取り組み、2050年カーボンニュートラルに貢献してまいります。

**焼却由来$CO_2$の焼却副産物（廃棄物）へのCCS構想**



# 脱炭素化への取組み（微細藻類培養 CCU）

- 本研究では、焼却由来$CO_2$を利用した微細藻類栽培により、高付加価値物質「フコキサンチン」を生産することで、経済性を確保しながら焼却由来の$CO_2$削減を目指すことを目的とします。
- フコキサンチン生成微細藻類の連続培養技術に強みを持つ㈱アルヌールとの協働により、大量生産・安定供給の技術開発を加速させ、フコキサンチン事業の創出、$CO_2$排出量削減を図っていきます。






ミダック富士宮事業所 新設実験室



アルヌール R&Dセンター

※藻類培養は、工場等の排ガスから分離回収されたCO2の固定化の方法として注目される技術の1つ

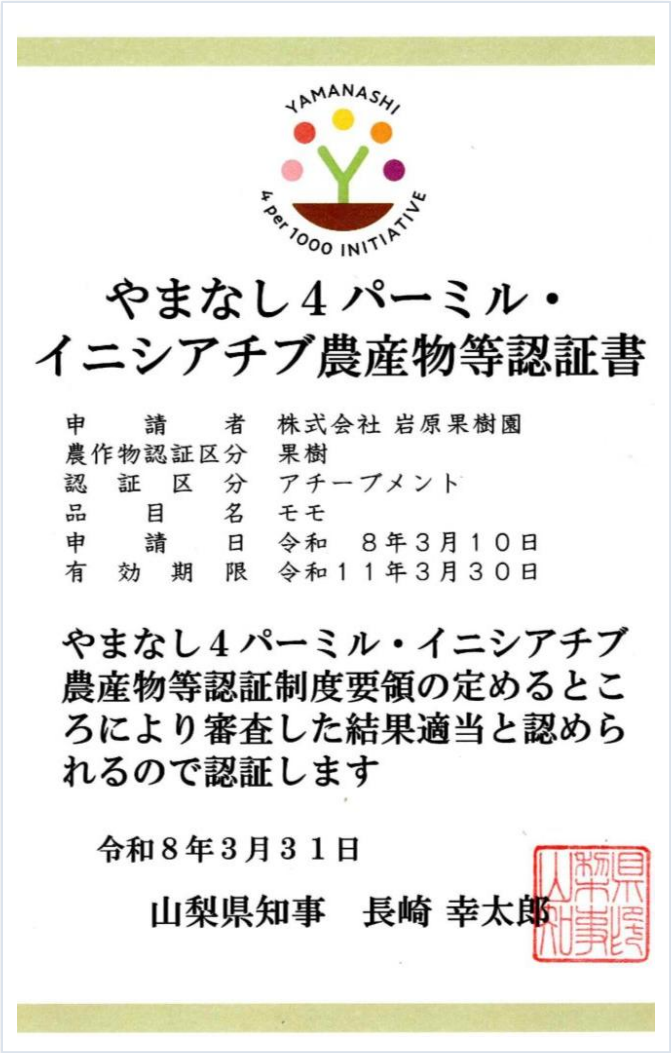
# 脱炭素化への取組み(やまなし4パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度)

- 岩原果樹園が、山梨県の認証制度における「アチーブメント認証」を取得
- 温室効果ガスの一つである二酸化炭素の排出を抑制する取組みを推進
- これまでの取り組みと土壌への炭素貯留量の実績が評価された

## やまなし４パーミル・イニシアチブ農産物等認証制度

世界の土壌表層の炭素量を年間4パーミル※増加させることができれば、人間の経済活動等によって増加する大気中の二酸化炭素の増加を実質ゼロにすることができるという考え方に基づく取組み
※4パーミル（‰） ＝ 0.4%

| 認証区分 | 内容 | 認証する具体的な取組み |
|---|---|---|
| エフォート | 【計画の認証】<br>実施する具体的な取組みについて目標を定め、土壌への炭素貯留量が確実に見込まれる計画を認証 | ① 草生栽培による雑草等の投入<br>② 堆肥、土壌改良材等の有機物を含む資材の投入<br>③ 生産圃場内で発生する剪定枝等作物残渣の投入<br>④ 剪定枝等を原料として製造したバイオ炭の投入<br>⑤ その他炭素貯留が見込まれる取組み |
| アチーブメント | 【実績の認証】<br>土壌への炭素貯留量の実績に基づき認証 | |



# 業績推移

（単位：百万円）

| | 2022/3期 | 2023/3期 | 前年比 | 2024/3期 | 前年比 | 2025/3期 | 前年比 | 2026/3期 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上高 | 6,381 | 7,771 | +21.8% | 9,547 | +22.8% | 10,905 | +14.2% | **11,844** | +8.6% |
| 営業利益 | 2,264 | 2,755 | +21.7% | 3,538 | +28.4% | 4,534 | +28.1% | **4,723** | +4.2% |
| 営業利益率 | 35.5% | 35.5% | 0.0pt | 37.1% | +1.6pt | 41.6% | +4.5pt | **39.9%** | -1.7pt |
| 経常利益 | 2,188 | 2,692 | +23.0% | 3,377 | +25.5% | 4,450 | +31.8% | **4,649** | +4.5% |
| 経常利益率 | 34.3% | 34.6% | +0.3pt | 35.4% | +0.7pt | 40.8% | +5.4pt | **39.3%** | -1.6pt |
| 当期純利益 | 1,284 | 1,685 | +31.2% | 1,907 | +13.1% | 2,862 | +50.1% | **2,888** | +0.9% |
| 設備投資額 | 4,175 | 1,501 | -64.0% | 2,457 | +63.6% | 3,480 | +41.6% | **10,582** | +204.1% |
| 減価償却費及びのれん償却費 | 668 | 805 | +20.4% | 929 | +15.4% | 979 | +5.4% | **1,177** | +20.2% |
| EBITDA | 2,933 | 3,560 | +21.4% | 4,467 | +25.5% | 5,513 | +23.4% | **5,901** | +7.0% |
| ROE | 17.1% | 16.4% | -0.6pt | 16.1% | -0.3pt | 20.3% | +4.2pt | **17.3%** | -3.0pt |

# 本資料の取り扱いについて

- 本資料は、情報提供を目的としたものであり、当社株式等の特定の商品についての募集・投資勧誘・営業等を目的としたものではありません
- 本資料に記載されている見解・見通し・予測等は、資料作成時点での当社の判断です。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください
- 本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご了承ください
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません

## 経営理念

ミダックグループは、水と大地と空気そして人、すべてが共に栄えるかけがえのない地球を次の世代に美しく渡すために、その前線を担う環境創造集団としての社会的責任を自覚して、地球にやさしい廃棄物処理を追求してまいります。

**株式会社ミダックホールディングス**